

「第2期気仙沼市子ども・子育て支援事業計画(案)」に対するパブリックコメントの実施結果をお知らせします。

番号	ページ	計画等の体系区分	寄せられたご意見の要旨	市の考え方
1	2	第1章 第1節 プロジェクト1.90の推進	気仙沼市は2013年にスローシティとして認証されているが、スローシティならではの食や自然の豊かさを活かした子ども子育て環境づくりができれば、より魅力的な街になり、より健やかに人が育っていくと思う。目指す指標が1.90では分かりにくいので、「SLOWな子育てができるまち」として子どもの環境を考えていくのはいかがか。県の「学土台づくり推進計画」の目指す子どもの姿のように、目指す方向性を分かりやすい文言で記載することを提案する。	子育て支援施策「プロジェクト1.90」の1.90とは、本市の目指す合計特殊出生率の目標数値を引用しているものですが、ご提言のとおり、子育て中の市民の方等から「分かりにくい表現」とのご意見をいただいております。ご提案いただいた内容を含め、本市の子どもの育ちと子育て支援環境の充実に向け、子育てタウンミーティング等、広く市民の方との意見交換の場でいただいたご意見を取り入れたネーミングを検討してまいります。
2	33	第3章 第5節 ニーズ調査の概要 (7)市の子育て支援に対する評価	「⑤児童館、公園など子どものあそび場の充実」について不満の声が多いようだが、多様なニーズに対応できるよう、公園の使用用途の分散化と駐車場の整備、民間の遊び場や子育てサークルへの具体的な支援をお願いします。	1月に実施した、子育てタウンミーティングの際も、公園の利用についてご意見を頂戴しており、自転車の練習の際は、公園内で保護者の管理監督の下での利用の表示や、学校の校庭の解放等に取り組むこととしております。民間団体等への支援についても、意見交換を実施しながら検討してまいります。

3	57	第5章 第2節 親子の健康増進	計画に「食育推進」だけでなく、地域・保育施設・学校等における「体力の向上」、「外遊び等のすすめと運動習慣の定着促進」、「遊びの大切さの啓発」といった記載をすることを提案する。	体力の向上や運動習慣の定着促進、遊びの大切さの啓発は、子どもの成長過程において大切な視点であり、第2期の計画期間中に、他の計画との整合性も踏まえ、検討してまいります。
4	61	第5章 第4節 子育てをサポートする生活環境の整備	側溝に蓋がない箇所があり、子どもたちにとって危ない。車道と歩道との境目のラインも消えていたり、蓋がない側溝の横にラインがあると、線の内側を歩くよう子どもたちに教えることができない。	子どもたちが日常的に集団で移動する経路について、警察署、道路管理者など関係部署と合同で緊急安全点検を毎年度実施しており、今後とも必要な改善を図ってまいります。
5	—	—	鳥取県、長野県等では、自然保育や自然を生かした子育て団体への支援・認証制度が整えられている。自然を生かした子育て・保育の第一歩目として「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」への加盟を検討いただきたい。自然活動や外遊びに関連した団体の活動や、移住定住の促進にも寄与するものとする。	自然を生かした子育てや保育は、子どもの豊かな情操を育むうえで重要な要素と考えられます。ご提言については、本市の目指す子どもの育ちや子育て環境についての方向性を市民の皆さんと共有する中で検討することといたします。
6	—	—	学童保育施設の状況から、需要が高まっていることが伺える。気仙沼小学校では一時帰宅せず直接児童センターへ行けると聞いたが、家庭の事情で子どもが家で一人で待つような場合、他学区でも家庭・学校の了解のもと、学校から直接児童館へ行けたり、公民館や学校内で待たせることがで	気仙沼児童センターは気仙沼小学校と隣接しており、学校からの移動の際も児童の安全の確保が図られることから、小学校との協議の上、直接来館できることとしております。他の学区において、同様の安全な移動と受入れ体制が確保できるかについて、今後、関係機関と検討してまいりま

			きるなどの方法を検討できないか。	す。
7	—	—	<p>少子化に伴い待機児童は減少していくかもしれないが、核家族化が進む中、低年齢児保育の需要は今後も高まっていくと思う。産後すぐでも安心して保育所に預けられるよう、保育所と助産師・看護師の連携があると、子どもの発達と母親のケアやヒアリングなど、病児保育の充実とともに総合的に相談できる専門家の配置を検討願う。</p>	<p>ご提言について、安心できる子育て環境に有効な手段の一つと考えられますが、各保育所への専門職の配置は、人材確保の観点から難しいと判断されます。現在、市内の私立認可保育所1箇所と認定こども園において体調不良時対応型の病児保育を実施しており、今後、対応可能な施設から実施していくこととしております。なお、子育てに関する相談や母親の不安への寄り添いについては、市保健師等と連携を図りながら対応しております。</p>
8	—	—	<p>産前や産後のケアが不足している。両親学級など行政主体のものだけでなく、民間の支援を受けられるような助成が必要。</p>	<p>今年度から新たに、母子保健の充実のため健康増進課で産後ケア事業を開始しました。民間の団体等の産後支援に関する様々な活動についても、利用者のニーズを聴取しながら、連携して取り組める事業について検討してまいります。</p>
9	—	—	<p>保育士の不足が未だ問題となっているが、若い保育士が意見を言えるような環境整備や学びの機会の創出、処遇改善が必要だと考える。若い保育士が希望を持って働けるような保育環境の充実、情報発信が次なる保育士の確保につながるのではないか。</p>	<p>保育人材の育成は保育の質の向上と環境充実に繋がるため、これまでも様々な研修の機会や他地域との情報交換等を実施しているところです。本市の待機児童対策においても保育人材の確保が最大のポイントであることから、引き続き確保に取り組んでまいります。</p>

10	—	—	<p>保育所では、9時30分までいろんな年齢の子が1箇所保育されているので、感染症対策としても8時30分を基本に年齢毎に保育してほしい。</p>	<p>保育士のシフト体制上、少人数の保育士による保育は子どもたちの安心、安全に関わることであり、また、異年齢間の交流も兼ねてこのように対応しているものです。なお、保育所においては引き続き感染拡大防止の措置を継続してまいります。</p>
11	—	—	<p>保育所も、保護者のニーズや意見を知るためアンケートをしてほしい。</p>	<p>計画の策定にあたり、未就学児の全保護者を対象にアンケートを実施しております。また、子育てタウンミーティングにおいても、子どもをもつ保護者の方々から様々な意見を伺っているところです。保育所では保護者会等で意見の聞き取りも行っていることから、アンケートについては、必要に応じて実施してまいります。</p>
12	—	—	<p>不登校の子どもたちの居場所作りのために活動している民間団体に対し、補助金を出してほしい。</p>	<p>市内で活動する複数のNPO法人等が、宮城県の復興予算を財源とする「みやぎ地域復興支援助成金」により活動しており、その助成金が令和2年度までで終了することから、継続の要望が出されていることは承知しております。民間団体等への補助金については、県の動向を注視し、県と市が連携しながら対応を検討してまいります。</p>

13	—	—	<p>不登校の子どもたちが増えているので、そのような子どもたちを支援してほしい。学校以外にもフリースクールなどの学べる選択肢があったら良いと思う。</p>	<p>学校以外の学べる場として、市では、気仙沼市適応指導教室（けやき教室）が、気仙沼中央公民館3階、気仙沼市青少年育成支援センター内にあります。けやき教室の運営方針は、「不登校児童生徒の心が安らぎ、安心して過ごすことができる場とする。そのためにも、一人一人をよく見守り、実情に応じた支援を行い、学校復帰を目指した将来への自立と社会参加の意欲や能力を育てていく」としております。主な活動は、学習活動、体験活動、自主活動、レクリエーション活動などです。随時相談を受け付けておりますのでご連絡ください。</p>
14	—	—	<p>今回、男性の育児に関して触れられていたのがとても良いと思いました。市の子どもの健診に行くと男性はひとりも居らず、気仙沼（国でも）では「育児は女性の仕事」という文化が根深いと思っています。これを解消するには、子どもの頃から「育児は夫婦ですもの」という意識をもって教育をしていかななくてはならないと思います。女性だけに育児の負担がいくと女性のキャパで子どもの上限が決まってしまうと思います。</p>	<p>ご提言について、本市においても女性の育児負担は、子育てにおける課題の一つと捉え、「男性の育児参加促進事業」による意識啓発や、「乳幼児親子の学校訪問事業」での中学生を対象とした赤ちゃんとのふれあい体験により、将来親になるイメージを育む事業に取り組んでおります。今後も市民の皆様のご意見をお聴きしながら、子育てに関する課題解決に向け取り組んでまいります。</p>

15	—	—	<p>児童手当や医療費など金銭的な支援は充実していると思います。しかし、赤ちゃんと遊びに行ける場所は圧倒的に足りない。児童センターも年齢の違う複数の子を連れて行けるようにできていない。また、会社で託児がないなど「子どもを育てる」という手が足りてないように思う。</p>	<p>子どもを連れて気軽に利用できる施設のあり方について、子育て世代の方のご意見を参考にしながら、今後の公共施設等の整備に反映してまいります。「地域で子どもを育てる」機運醸成にあたり、企業等の子育てへの理解や協力体制は重要な視点であると捉えていることから、今後の子育て支援施策の検討材料としたいと考えております。</p>
16	—	—	<p>もっと保育士の数を増やして、保育所に入れたい時に入れられるようにしてほしい。</p>	<p>保護者のニーズに応えられるよう、保育士の確保について継続して実施してまいります。</p>
17	—	—	<p>不妊治療に市の独自支援があっても良いと思います。</p>	<p>現在、医療保険の適応外で高額な治療費となる特定不妊治療を受けている夫婦に対し、特定不妊治療に係る費用の一部を助成しております。不妊治療の独自支援については、他市町村の状況も見ながら、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>
18	—	—	<p>結婚支援事業はあんまり必要ないのでは。それよりも若い世代の収入・労働条件の改善が必要かと。</p>	<p>結婚支援事業については、新型コロナウイルス感染症の状況や事業自体の対費用効果の面を踏まえ、引き続き検討してまいります。なお、若い世代の待遇等の改善に関するご意見については今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>

19	—	—	図書館について、祝日も開館してほしい。	職員のシフト体制上、祝日開館することにより平日の業務に支障が出るため、現在は休館となっております。ご要望については、体制が整うよう検討してまいります。
20	—	—	子どもに対するインフルエンザ予防接種の助成がほしい。	インフルエンザの予防接種については、定期接種化を国・県へ要望しており、今後も引き続き要望してまいります。
21	—	—	今年は小学校では、プールがないため、子どもたちが、水に触れて過ごす機会がとても少なくなると思う。夏の暑さ対策をしっかりとしてほしい。プールの授業としてではなくても、水に入って過ごす日があってもいいのでは。	プールの授業については、感染防止対策が十分に講じられないことや様々な感染症リスクを考慮し、今年度は行わないこととしており、同じ理由で水に入ることも難しいと考えております。
22	—	—	子ども医療費受給資格登録（更新）申請却下通知書において、資格却下の場合の理由の条例第3条第2項の定義が分からない。この部分の条例の定義だけでも郵送書類に添付できないのか。	却下通知書に同封しております所得制限等に関するチラシを、より分かりやすい内容に見直してまいります。